機1

真の強さを学ぶ。
新潟大學
NIIGATA UNIVERSITY

第11回PhDリクルートフォーラム開催報告

PhD

真の強さを学ぶ。
新潟大學
NIIGATA UNIVERSITY

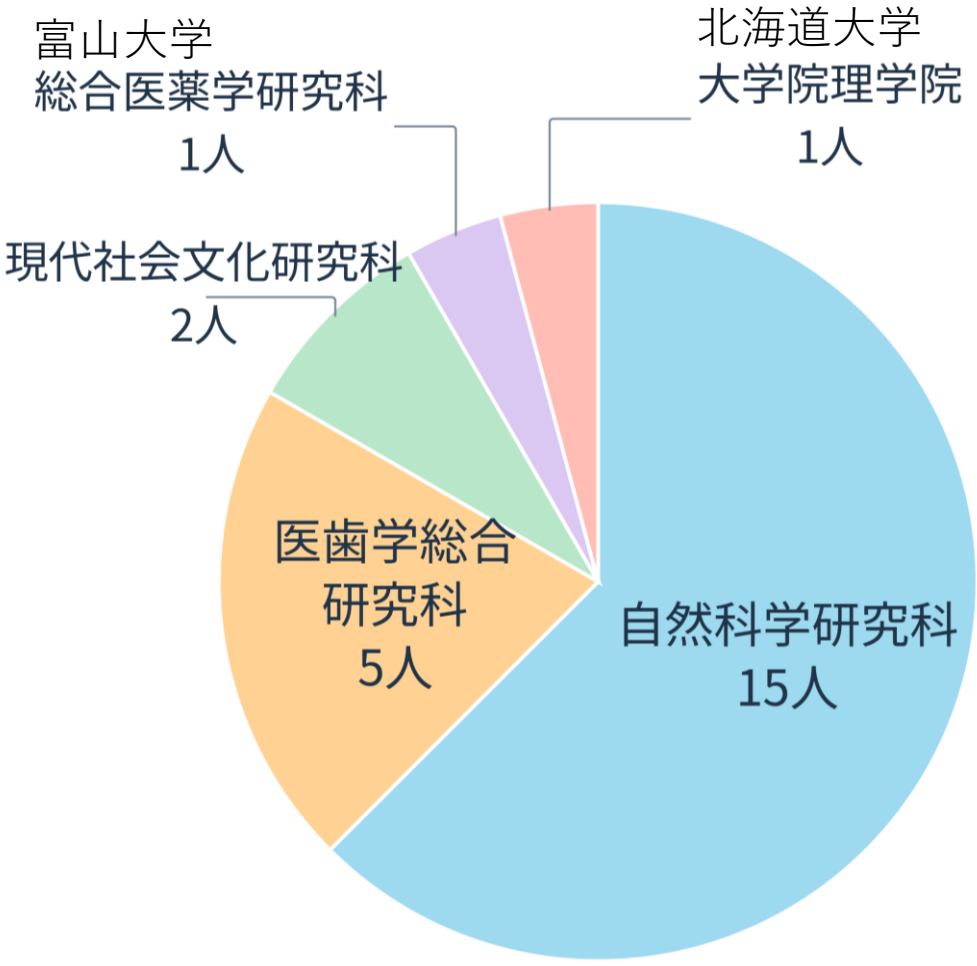
開　催　日　：2026年9月10日（木）10:15~19:00
開 催 場 所　：アートホテル新潟駅前
参加博士学生：24名
新潟大学　　22名
富山大学　　1名
北海道大学　1名

参 加 企 業　**：**14社
あいおいニッセイ同和損害保険　キッコーマン
Qnityジャパングループ　キリンホールディングス
グローバルウェーハズ・ジャパン　産業技術総合研究所
住友金属鉱山　TDSE　東京都立産業技術研究センター
ナミックス　日本入試センター(SAPIX YOZEMI GROUP)
村尾技建　Ridge-i　レゾナック（敬称略）

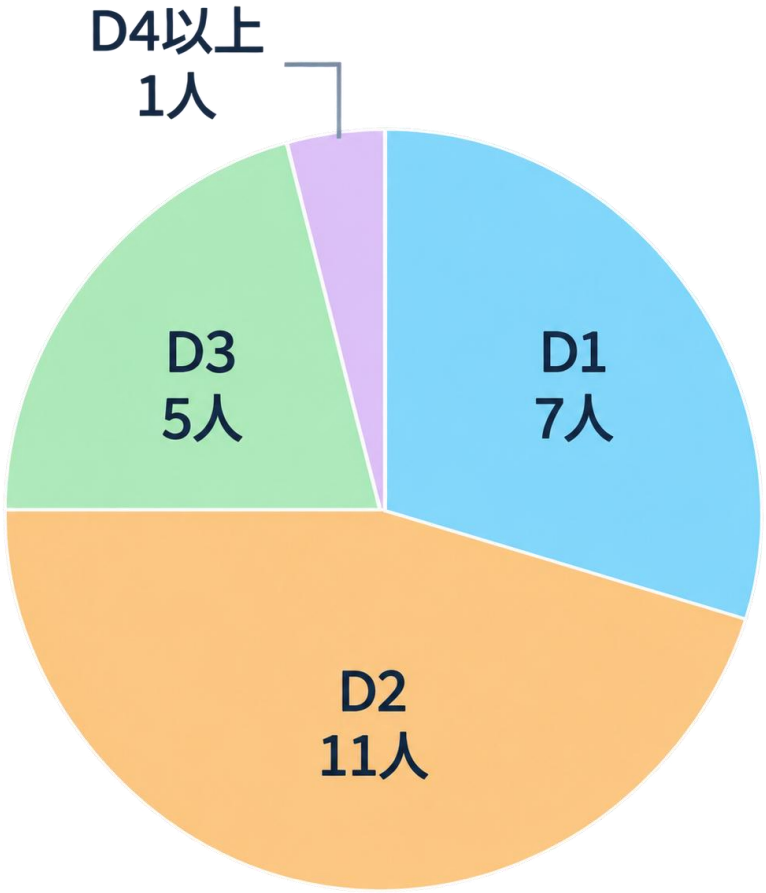
アンケート回答者数：博士学生24名、企業20名
（参加者数：博士学生24名、企業28名（14社））

1. 博士学生 属性

所属



学年

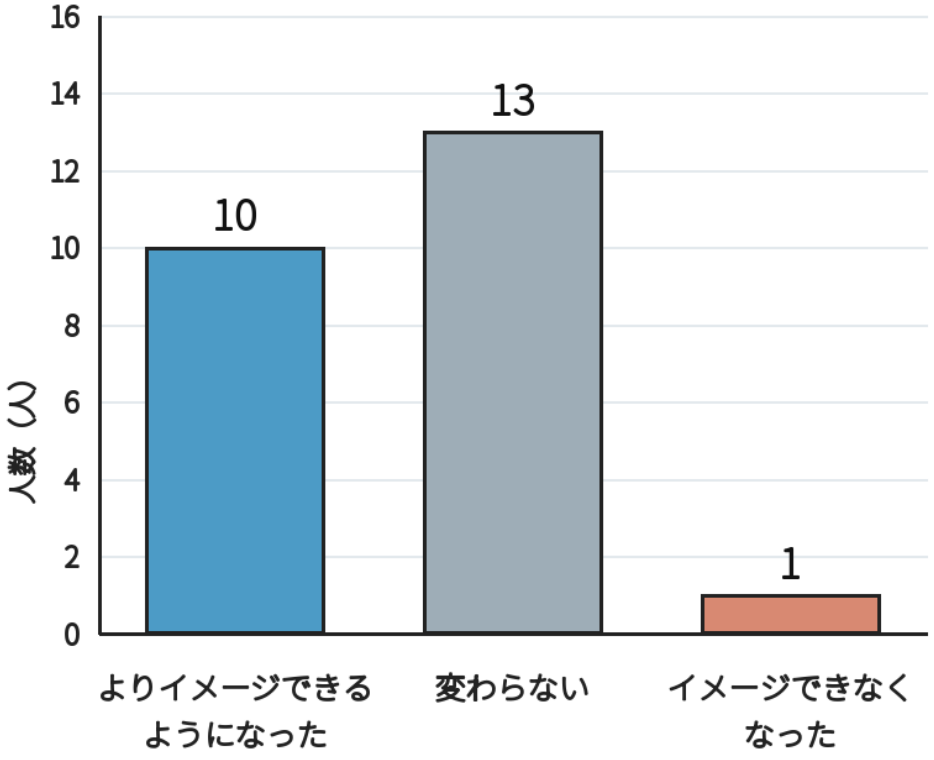


2. 博士学生のキャリアに関する意識の変化

真の強さを学ぶ。
新潟大學
NIIGATA UNIVERSITY

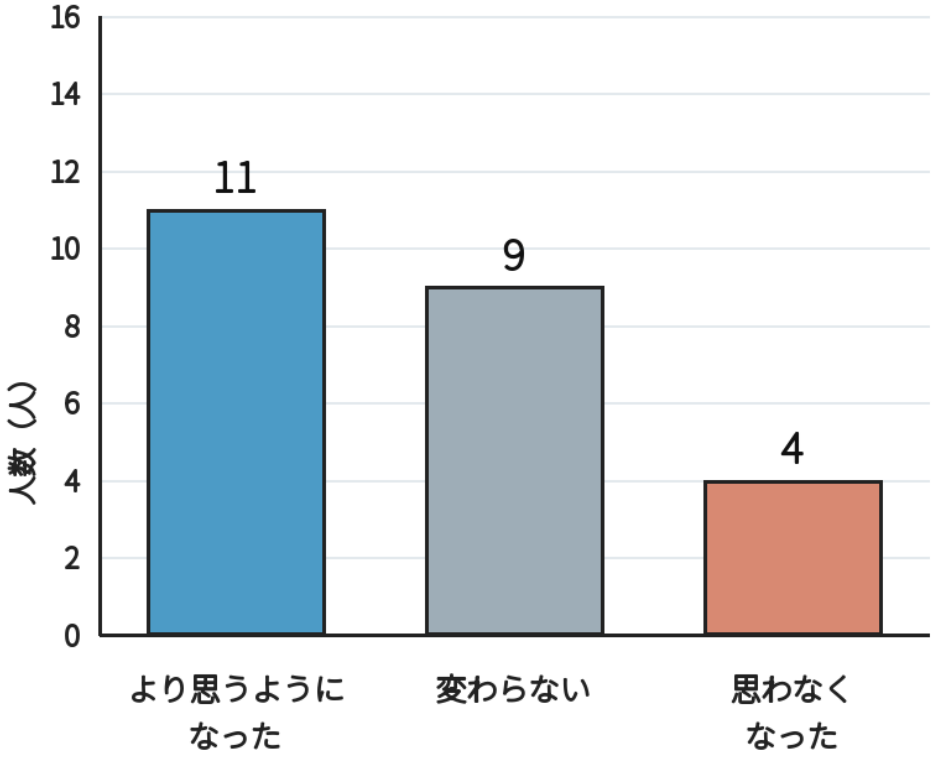
自分の強みやスキルを、博士課程
修了後のキャリアでどのように
活かせるか具体的にイメージできる

（フォーラム前後の変化）



現在考えているもの以外にも、
自分にとって可能性のある
キャリアの選択肢があると思う

（フォーラム前後の変化）

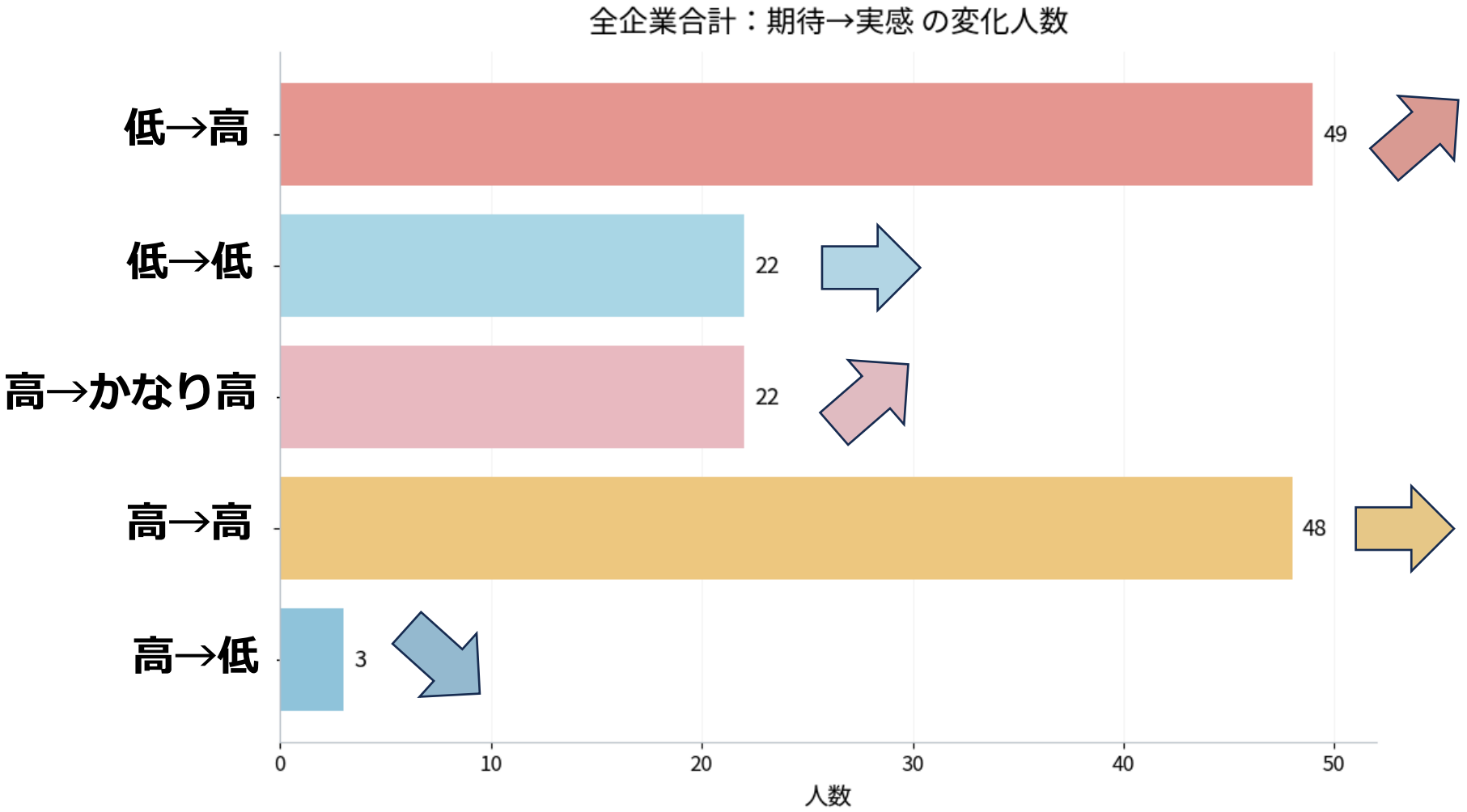


3. 博士学生のフォーラムへの期待と実感

真の強さを学ぶ。
新潟大學
NIIGATA UNIVERSITY

実際にこの企業の方と対話してみて、この企業との交流から得られたものは、フォーラム参加前の想定と比べてどうでしたか。

※「期待」は参加前に「この企業との交流から得るものがありそうだ」と思っていた程度、
「実感」は実際に対話して「得るものがあった」と感じた程度を表す。



4. 博士学生のフォーラムでの気づき

真の強さを学ぶ。
新潟大學
NIIGATA UNIVERSITY

企業の方との対話を通じて、自分自身や仕事・キャリアについて、新たに気づいたことや、考えが深まった・変わったこと

- 自分の専門分野に関わらず、分野横断的に博士人材が活躍できる場があることがわかった。
- 博士学生でも必ずしも専門性がマッチする必要はなく、研究の過程で学んだことを企業で活かすことが重要であると学んだ。
- 求められてる研究者の人材像と現在の自分の研究にまだ少し距離がある事を感じました。
- 色んな方とお話しすることにより、博士人材の立ち位置などを理解することができた。
- その企業の分野はもちろん、ほかの分野に関する情報もいただけたので、いろんな分野の方の話を聞くのは重要だと改めて感じた。

- 博士課程で培うことが期待できるであろう能力を、想像以上に、企業の方々が必要としてくださっていたり、期待してくださっていたりするという事実に気づくことができました。少し自分に自信が持てました。

- 半導体の分野において、自分が行なっている研究は結びつきにくいと思い込んでいましたが、むしろそういう人材が重要になってくると聞いて励みになりました。

- 過去の経験やデータ解析技術など、現在の専門以外の部分を評価してもらえることに気づいた。

- 企業研究の実情についてかなりご回答いただけました。イメージが具体化されました。

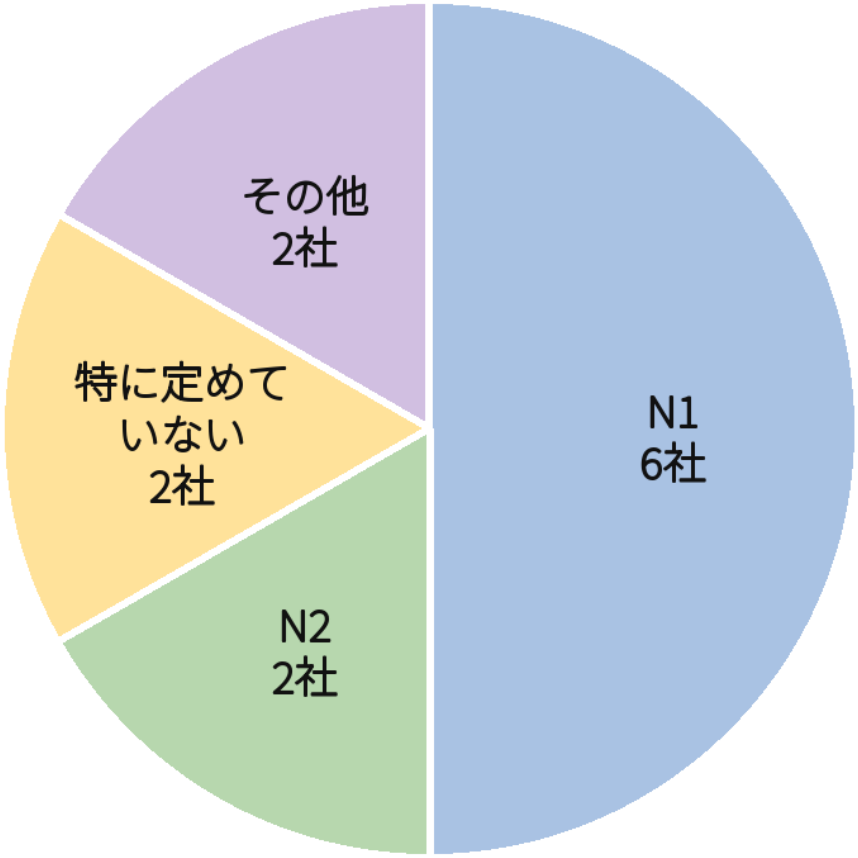
- 自身の志望業界に対して、知らない企業でも自身の希望の就職ができる可能性を感じたため、もう少し自身の志望業界について見識を深めたいと感じた。

5. 企業が採用で必要とする日本語レベル

真の強さを学ぶ。
新潟大學
NIIGATA UNIVERSITY

外国人博士人材（DC・PD）の採用について、応募に必要な日本語レベルはどの程度ですか。

（全12社）



その他：
・日本語能力試験の認定は必要としていませんが、日常的な場面で使われる日本語を理解し、話せる能力があるとより良いです。
・外国人博士人材の採用は行っておりません。

6. 企業からのご意見・ご要望

真の強さを学ぶ。
新潟大學
NIIGATA UNIVERSITY

PhDリクルートフォーラム全体についてのご意見・ご要望などをご記入ください。

- 研究のマッチングはあまりよくないケースでも、当社やその考え方を知ってもらえる機会として重要と考えています。
- 面接で研究内容をしっかりと聞く弊社として、学生による研究のポスター発表は良い内容だと考えています。
- 企業紹介が少々短く、伝えきれなかった部分があります。一方で学生とのコミュニケーション時間は長くとられているので、研究ディスカッションやそこで培った力について教えていただくことができました。全体的には満足度の高いイベントだったと感じています。
- 学生の参加人数が限られている中でも、弊社の採用ターゲットとなる学生の方々と直接交流でき、有意義な機会となりました。博士人材と直接お話しできる貴重な機会ですので、今後も機会がございましたら、ぜひ参加させていただきたいと考えております。

- 今年度は昨年度までと比較して、学生の発表のレベルが特に高かったように思います。主に自然科学系・理学系の学生さんを中心に発表を聞かせていただきましたが、発表の論旨がポスター1枚約5分程度でよくまとまっており、冗長になりそうな情報はすっきりと割愛されており、聞き手に伝わりやすい内容になっていたと感じました。特に●●さんの発表は、ポスターで表現しきれない情報をタブレットで動画を使ってキレイなビジュアライゼーションでまとめていただいており、研究の範囲の広さも併せて圧倒されました。PhDリクルート室の皆様のご指導・ご尽力の賜物と思います。博士課程出身者の一人として、このようなご指導は来年度以降もぜひ継続いただければ幸いです。改めまして、皆様のスムーズな運営とこのような機会のご提供に感謝申し上げます。

- このような機会を設けていただき、大変ありがたく思っております。企業として優秀な博士人材を採用したいという想いがある一方で、学生の皆さんにも「自身が本当に活躍したいフィールドはどこなのか」を考え、ミスマッチの無い進路に進んでいただければとも切に願っております。その意味で、今回のように、昼食や懇親会も含め、企業と学生とが双方向でコミュニケーションを取りやすい形式は、とても良いと感じました。私自身も数年前までは課程博士の学生の立場でありましたので、その立場から考えても、企業の方に自身の研究内容を紹介し、生のフィードバックをもらえる機会は、とても参考になり有意義なものであろうとも思います。新潟大学を起点として他大学の学生の方も参加されておりましたが、今後もこのような取り組みの輪がさらに広がっていけば嬉しく思います。この度は貴重な機会をありがとうございました。

以上